

摘されています。このため、供給を上回る需要が増加している影響により在庫が逼迫し、医療現場において治療が必要とされる方たちへの処方制限される事態が生じています。また、GLP-1受容体作動薬を美容・痩身・ダイエット等の目的で適応外使用をした場合、薬剤の副作用により入院治療が必要となる程の重篤な健康被害が生じたとしても、適正に使用したと認められないわけですから、「医薬品副作用被害救済制度」の救済給付を受けられない可能性が非常に高く、くれぐれも適応外使用はしないようご注意ください。

(保健科学部)

## トピックス 2 オーストラリアでの 海外研修報告

横山慶子

私は今年度、研究に専念するための特別研究期間を頂き、通算で約7か月間、オーストラリアのマッコーリー大学に滞在しました。ちょうど滞在期間の終盤に、この原稿を執筆する機会を頂きましたので、本稿では、この海外研修に関連する内容について、紹介したいと思います。マッコーリー大学は、シドニーの中心部から電車で約1時間ほどの場所にある、オーストラリアの公立大学です。マッコーリーという名称は、植民地時代の初代総督の名前にちなんで名づけられたそうです。キャンパス周辺には、グローバル企業が密集したリサーチパークや、大型のショッピングセンターがあり、少し歩くと自然豊かな国立公園もありました。

私がお世話になった研究室は、心理学部のMichael Richardson教授が主宰する、動きの複雑性に関する研究室（Complexity in Action Research Laboratories）でした。研究領域としては、実験心理学や認知科学を軸足としており、私の主な研究領域のスポーツ科学とは異なりますが、ヒトの複雑な動きの仕組みを研究するという点で共通点がありました。私がRichardson氏に初めてコンタクトを取ったのは、学位取得後の2011年頃でした。博士課程時の研究が、彼のグループの研究に関係していたので、話を聞いて欲しく、思い切って研究室訪問の打診メールを送ったのですが、残念ながらその際はお返事をもらえませんでした。しかしその後、彼の共同研究者を通じて

繋がりができ、日本の共同研究者とともに研究室訪問させてもらうなどの交流があり、今回に至りました。

具体的に研究室について紹介しますと、メンバーは、准教授が1名（Richardson氏の奥様です）、ポスドクが4名、博士課程の学生さんが6-7名、学部生が4-5名ほどで、心理学はもちろんですが、工学や情報学をバックグラウンドとした研究者も在籍していました。彼らの国籍は、オーストラリアだけでなく、アメリカやイギリス、ポーランド、インド、アラブ首長国連邦など様々でした。また、人種や宗教、さらにはジェンダーも様々で、オーストラリアの多民族、多文化、多様性を節々で感じました。研究内容についても紹介しますと、この研究室の最近の主要テーマは、多人数のコミュニケーションを、人工知能（AI）や仮想現実（VR）を用いて検証することでした。ヒトと機械の融合は、科学技術の社会実装には重要で様々な領域で議論されていますが、この研究室では、ヒトとヒトのコミュニケーションを支援・活性化する役割として、AIやVRがいかに関活用できるかという点が、研究の出口のひとつのようです（あくまでも私の印象ですが）。こうした状況で、私はというと、Richardson氏らが過去に発表された、二者間のリズム同期に関する研究を、三者に拡張した実験を実施しました。この研究について、ちょっとだけ説明します。皆さんは、誰かと一緒に歩いている際に、無意識に他者と歩調のリズムが揃っていた、という経験はないでしょうか。こうした、意図せずに他者と身体の動きが同期する現象のダイナミクスについて、彼らは手でスティックを揺らす、手首振り子の課題を用いて検証しました。しかし、三者関係については、分かっていないことが多く、私は彼らの課題を少し変更して、三者を対象に実験を行うことにしました。三者関係は、二者関係よりもコミュニケーションのパターンが増えるため、全体のふるまいは、ずっと複雑になります。こうした複雑性は、スポーツで同時に複数の他者とコミュニケーションする動きにも関係しており、私にとって今回の実験は、その理解に繋がる基礎的な研究と捉えています。

最後に、この滞在で経験した、運動について紹介したいと思います。今回、私は人生で初めての長期の海外滞在を経験したのですが、慣れない生活で、知らないうちにストレスが溜まることもあ

りました。そんなとき、大学のスポーツセンターの会員になり、随分と救われました。カテゴリーは色々あったのですが、職員価格で1か月に換算すると6千円ほどのタイプを選びました。すると、立派なトレーニングジムやプールが自由に利用できたのですが、私が最もハマったのは、グループフィットネスのクラスでした。ここでは、約1時間のクラスが1日に15クラスほど、約3つのスタジオで、朝や昼休み、夕方に開講されていました。内容は、ヨガやピラティス、ダンスなどの運動強度の低いクラスから、ウェイトやステップ台、バイク、ボクササイズなどを取り入れた、運動強度の高いクラスまであり、定員に余裕があれば自由にいくらでも受講できました。また、大学の学生・教職員だけではなく、地域の方も入会可能なようで、お年寄りから若者まで参加されていました。正直なところ、これまで私はフィットネス系の運動は球技系のスポーツほど好んで実施した経験がなかったのですが、この滞在で食わず嫌いだったことが分かりました。何事も、やってみないと分からないものですね。 (体育科学部)